

## よしのがり 吉野ヶ里歴史公園整備事業

受賞機関 国土交通省九州地方整備局 国営吉野ヶ里歴史公園工事事務所  
佐賀県土木部公園下水道課

はじめに

「吉野ヶ里遺跡」は、佐賀県東部に位置する国内最大級の弥生時代の環壕集落跡であり、大陸から米作りを取り入れたムラがクニの中核集落へと発展していく過程をたどることのできる極めて学術的価値の高い遺跡である。

本公園は、このわが国固有の優れた文化的資産である吉野ヶ里遺跡の保存及び活用を図るため、平成4年度から国土交通省と佐賀県が共同で都市公園として整備を進め、平成13年4月21日に第1期開園を行った。

事業概要

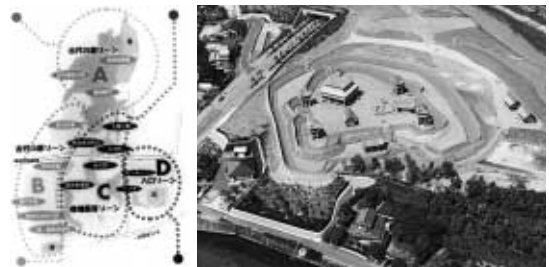
吉野ヶ里歴史公園は、「弥生人の声が聞こえる」を基本テーマとし、約54haの国営公園と、それを補完保護をする県営公園約63haが一体的に計画されている。

このうち、第1期開園を行った区域は次の3つのエリア約47haとなっている。

- (1)「入口ゾーン」：公園の総合案内や各種のサービス提供を行うゾーンで中心施設となる歴史公園センターや駐車場などを整備した。
- (2)「環壕集落ゾーン」：当時の環壕集落の復元整備を行うゾーンで、クニのまつりごとを司さどる主祭殿をはじめとする11棟の建物などが復元された北内郭や、階層の高い人達が暮らしていた南内郭、これらを取り囲む城柵や環壕、逆茂木などを整備した。
- (3)「古代の原ゾーン」：弥生の水田や水辺、草地を再現するゾーンで、広々としたオープンスペースの



弥生時代最大級の祭殿



公園整備のゾーニング まつりごとの中心地北内郭全景

中で憩い楽しめる場を整備した。

特に環壕集落ゾーンを中心とする史跡区域の整備については、遺構を傷つけないように最低30cmの保護盛土を行い、その上に発掘調査の結果を基に古代建築や考古学、歴史学、生活文化の専門家の検討結果に基づき遺構に忠実な建物の推定復元を行っている。

また、公園全体として弥生時代の雰囲気を作りだすため、当時の植物を使用し、修景を行っている。おわりに

吉野ヶ里歴史公園では、引き続き当時のクニの都の全体像がイメージできるように、倉庫群、市場、庶民のムラなどの環壕集落ゾーンの施設整備を進めていく計画である。

また、来園者の方々に弥生時代を楽しんでいただけるよう発掘現場の公開や、弥生の体験プログラムとして、勾玉づくり、火おこし、古代米栽培ワークショップなど季節毎に様々なメニューを実施していくこととしている。



公園の全体計画図と第一期開園区域

受賞賛助会員 佐藤工業(株)九州支店、世紀東急工業(株)九州支店